

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・インド、フィリピン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

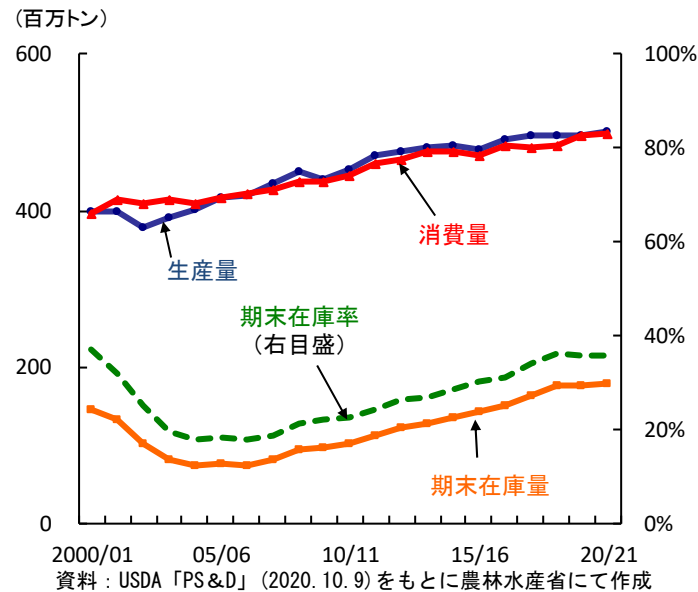
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・インド、タイ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・インド等で上方修正も、タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



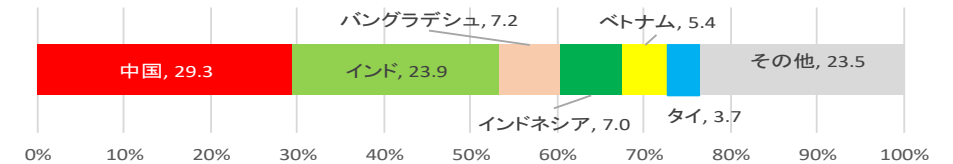
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米ト)

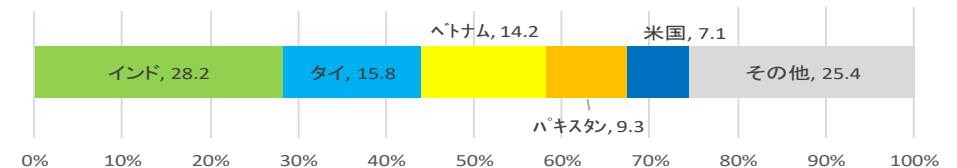
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	496.7	495.8	501.5	1.9	1.1
消 費 量	484.3	495.3	499.4	3.0	0.8
輸 出 量	43.7	42.3	44.3	▲ 0.2	4.8
輸 入 量	43.7	40.5	41.9	▲ 0.4	3.3
期末在庫量	176.6	177.1	179.2	▲ 5.7	1.2
期末在庫率	36.5%	35.8%	35.9%	▲ 1.4	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 October 2020)

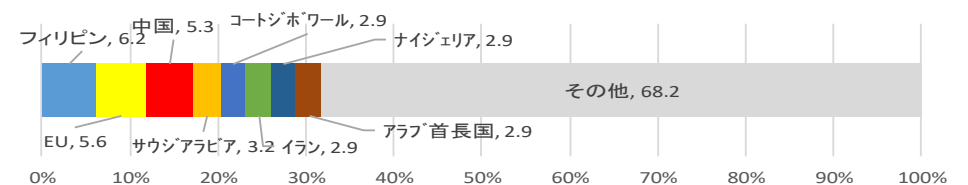
○ 2020/21年度 世界のコメの生産量 (501.5百万トン) (単位：%)



○ 2020/21年度 世界のコメの輸出量(44.3百万トン)



○ 2020/21年度 世界のコメの輸入量(41.9百万トン)



（２）国別のコメの需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、10月の作柄調査を反映し、前月予測から中・短粒種、長粒種ともに上方修正されたため、2020/21年度の生産量は前月に比べ0.1百万トン上方修正され、対前年度比22.7%増の7.2百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の実産量は全体の約3割を占める。

現在、収穫が終盤となっており、「Crop Progress」(2020.10.19)によれば、収穫進捗率は91%(前年度同期91%)と前年度と同じペースで進展している。なお、カリフォルニア州の収穫進捗率は90%と前年度同期（77%）を上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸入量は、前年度に引き続き、アジア産の香り米の輸入需要が強いため前月予測からわずかに上方修正され、対前年度0.8%減の1.2百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度の実産量は、モンスーンの降雨に恵まれ、前月予測から1.0百万トン上方修正され、対前年度1.3%増の120.0百万トンの見込み。

モンスーンによる降雨に恵まれ、カリフ米は成熟期から収穫期を迎えている。インド農業省によれば、9月18日時点の作付済面積は40.7百万ヘクタールと前年同期（37.9百万ヘクタール）を7.5%上回っている。インド東部・南部では、カリフ米の収穫後、ラビ米の作付けが開始される。

USDAによれば、2020/21年度の実消費量は、2020年3月からの公的配給システムの導入による8億人を対象としたコメの補助により2.0百万トン上方修正され、106.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の実輸出量は、前月予測から上方修正され、対前年度4.2%増の12.5百万トンとなる見込み。インド商工省によれば、2020年4月から6月の輸出量累計は321万トンで前年同期比37%の増加。輸出量のうち128万トンが高品質のバスマティ米で、193万トンが普及米の非バスマティ米である。輸出量は、前年度対比でバスマティ米、非バスマティ米ともに増加している。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)					
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.1	5.9	7.2	0.1	22.7
消 費 量	4.6	4.6	4.6	-	1.1
輸 出 量	3.0	3.0	3.1	-	5.0
輸 入 量	0.9	1.2	1.2	0.0	▲ 0.8
期末在庫量	1.4	0.9	1.5	0.1	67.0
期末在庫率	18.8%	12.0%	19.6%	0.8	7.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.18	1.00	1.21	-	21.0
単収(もみt/ha)	8.62	8.38	8.48	0.04	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 Octoberr 2020)

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)						
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	116.5	118.4	120.0 (120.0)	1.0	1.3	
消 費 量	99.2	105.9	106.0 (105.3)	2.0	0.1	
輸 出 量	10.4	12.0	12.5 (11.3)	0.5	4.2	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	29.5	30.0	31.5 (113.0)	▲ 6.5	5.0	
期末在庫率	26.9%	25.4%	26.6% (96.9%)	▲ 6.2	1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.16	43.78	44.50 (44.00)	-	1.6	
単収(もみt/ha)	3.96	4.06	4.05 (2.73)	0.04	▲ 0.2	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 Octoberr 2020)
IGC「Grain Market Report (24 September 2020)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく147.0百万トンの見込み。

中国気象台の農業気象週報によれば、9月下旬時点で、湖南、江西、広西と広東中北部の二期作晩稲は出穂から乳熟期に入っており、広西と広東南部は穂ばらみから出穂期に入っている。全国二期作晩稲の一、二類の苗の割合は11%と86%で、前年同期（11%、84%）比、一類は前年同期並みで、二類は2ポイント向上している。

また、一期作稲は、9月下旬時点で、乳熟から成熟・収穫期に入っており、四川盆地は収穫済みで、湖南は終盤に入り、湖北は6割、江西は5割、安徽は約2割の収穫率となっている。10月12日時点で収穫率は全体平均で59.1%となっている。

中国糧油情報センター（2020.10.9）によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測から1.7百万トン上方修正され、211.8百万トン(粳ベース)の見込み。そのうち、二期作早稲は、0.6百万トン上方修正され27.3百万トン、一期作は、0.5百万トン上方修正され153.1百万トン、二期作晩稲は、0.5百万トン上方修正され31.4百万トンである。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比11.5%増の2.9百万トンの見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（9月）によれば、9月の早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカの卸売価格（精米）は、それぞれ3,700 元/トン（8月3,700 元/トン）、4,180 元/トン（同4,100 元/トン）、4,280 元/トン（同4,520 元/トン）。

インディカ米の価格は、国慶節や中秋を迎え需要増から前月より上昇したが、ジャポニカ米の価格は、倉庫保管時の新米の水分過多等が影響して、小幅に下落に下落した。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

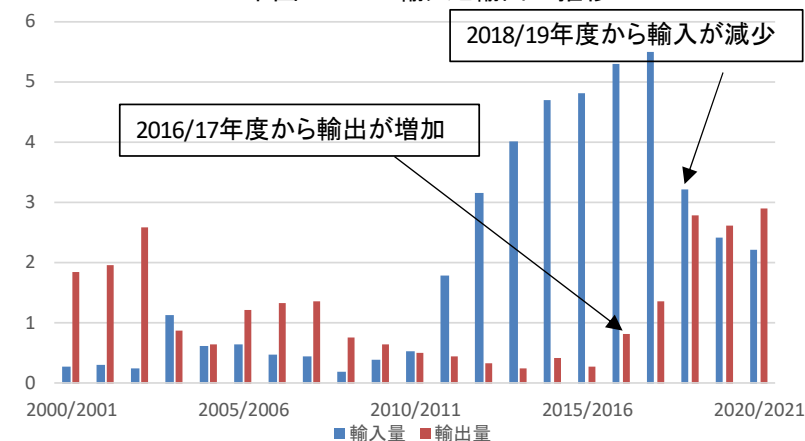
(単位:百万精米トン)

(単位:百万米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	148.5	146.7	147.0 (147.6)	-	0.2
消 費 量	142.9	145.0	146.3 (146.3)	-	0.9
輸 出 量	2.8	2.6	2.9 (3.0)	-	11.5
輸 入 量	3.2	2.4	2.2 (2.3)	-	▲ 8.3
期末在庫量	115.0	116.5	116.5 (113.0)	-	0.0
期末在庫率	78.9%	78.9%	78.1% (75.7%)	-	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.19	29.69	29.80 (30.00)	-	0.4
(単収(もみt/ha)	7.03	7.06	7.05 (4.92)	-	▲ 0.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 October 2020)
IGC「Grain Market Report (24 September 2020)」(単収は精米t/ha)

中国のコメの輸入と輸出の推移



資料: USDA「PS&D」(2020.10.9)をもとに農林水産省にて作成

※ 一類苗: 生育が正常な苗 二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗
三類苗: 病気の苗、弱い苗

< タイ >

【生育・生産動向】

USDAによれば、現在生産が行われている2019/20年度(2020年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、17.7百万トンと干ばつの影響で前年度(2018/19)を12.3%下回る見込み。

10月下旬は2019/20年度の雨季米の収穫期にあたるが、10月の降雨は成熟期を迎えた稲に良好な水分供給となったものの、一部で収穫遅れの懸念がある。

2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、18.6百万トンの見込み。

2020年11月以降に2020/21年度の乾季米の作付けが開始されるが、10月に降雨があったものの、北東部では灌漑用の貯水量がまだ不足しており、更なる降雨が必要とみられている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、他のアジア諸国に比べタイの価格が高いことから輸出競争力が弱く、8月の輸出ペースが鈍かったことから、2019/20年度の輸出量は、前月から1.0百万トン下方修正され、5.5百万トンの見込み。

タイ米輸出協会によれば、8月の輸出量は、前年同月に比べ12.9%の減少となった。また、2020年1月から8月までの輸出量は、前年度から31.8%減少の365.2万トン。輸出先国は、米国(47.8万トン)、南アフリカ(39.5万トン)、アンゴラ(26.2万トン)の順で、米国、豪州等への輸出量が増加し、ベナン、カメルーン、中国向けが減少している。

USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、2020年の輸出実績が落ち込んでいることや、輸出価格が高く輸出競争力の弱さが継続するとの見方から、前月から0.5百万トン下方修正され、7.0百万トンの見込み。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	17.7	18.6	(19.1)	-	5.3
消費量	11.8	12.0	12.0	(11.7)	0.5	-
輸出量	7.6	5.5	7.0	(8.0)	▲ 0.5	27.3
輸入量	0.3	0.3	0.2	(0.3)	-	▲ 20.0
期末在庫量	4.2	4.6	4.4	(4.6)	0.2	▲ 4.3
期末在庫率	21.9%	26.5%	23.4%	(23.5%)	1.1	▲ 3.1

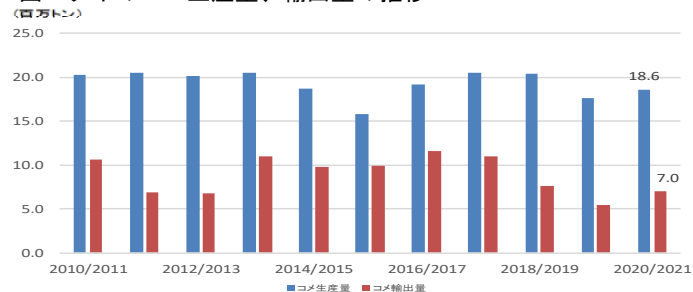
(参考)

収穫面積(百万ha)	10.83	9.89	10.30	(10.73)	-	4.1
単収(もみt/ha)	2.85	2.70	2.74	(1.78)	-	1.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 Octoberr 2020)

IGC「Grain Market Report (24 September 2020)」(単収は精米t/ha)

図 タイのコメ生産量、輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2020.10.9)をもとに農林水産省で作成

表 タイのコメ輸出先国別輸出量及びシェア

	2020年1月～2020年8月			2019年1月～2019年8月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	米国	47.8	13.1	ベナン	95.4	17.8
2	南アフリカ	39.5	10.8	南アフリカ	45.8	8.5
3	アンゴラ	26.2	7.2	米国	37.4	7.0
4	日本	18.7	5.1	カメルーン	31.6	5.9
5	中国	15.6	4.3	中国	28.0	5.2
6	その他	217.3	59.5	その他	297.5	55.6
計		365.2	100.0		535.6	100.0

資料: タイ米輸業者協会(2020.10.5)をもとに農林水産省で作成

＜ベトナム＞

【生育・生産動向】USDAによれば、現在生産が行われている 2019/ 20 年度(2020 年 1 月～2020 年 12 月) の生産予測は、前月から 0.2 百万トン上方修正され、27.2 百万トンの見込み。現在、主に、ベトナム北部の紅河デルタで雨季作、南部のメコンデルタで夏秋作、秋冬作の生産が行われている。作季別の生育状況等は以下の通り。

《雨季作》

ベトナム農業農村開発省によれば、農地の用途変更等により作付面積が前年度より 2.9%減少し、1.5 百万ヘクタール。生育段階は、21.9%が幼穂分化期、78.1%が登熟期を迎えている。

《夏秋作》

ベトナム統計局によれば、作付面積が前年度より 3.2%減少し 1.9 百万ヘクタール。生育段階は、25.9%が幼穂分化期～登熟期、73.7%が収穫期を迎えている。生産量は、単収が前年度を上回るも、作付面積の減少で、前年同時期を下回る 1.1 百万トンの見込み。

《秋冬作》

ベトナム農業農村開発省によれば、メコンデルタでの洪水が小規模であったため、作付面積は平年を上回る 1.94 百万ヘクタール。生育段階は、47.6%が幼穂分化期から登熟期、11.9%が収穫期を迎えている。秋冬作は病虫害被害が少なく夏秋作に比べコストが低いため、長期的には夏秋作の 20～40 万ヘクタールの秋冬作への転換が予定されている。

USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～2021 年 12 月) の生産量は、前月予測からの変更はなく、27.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2019/20 年度の輸出量も、前月予測からの変更はなく、6.6 百万トンの見込み。また、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更なく 6.3 百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2020 年 1 月から 9 月までのコメの累計輸出量は対前年度比 98.6%の 4.99 百万トン。輸出先国別にみると、フィリピンが最も多く、以下中国、マレーシアの順。中国、ガーナ、モザンビーク等への輸出量が前年度に比べ大幅に上昇した。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.3	27.2	27.0 (28.3)	-	▲ 0.6
消 費 量	21.2	21.1	21.2 (22.2)	-	0.5
輸 出 量	6.6	6.6	6.3 (6.6)	-	▲ 4.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.1	1.0	0.9 (2.9)	-	▲ 10.5
期末在庫率	4.0%	3.4%	3.1% (10.1%)	-	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.54	7.47	7.40 (7.47)	-	▲ 0.9
単収(もみt/ha)	5.80	5.82	5.84 (3.79)	-	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

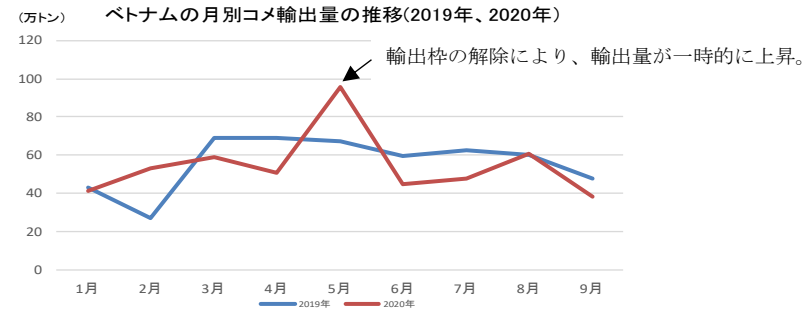


表 ベトナムのコメ米輸出先国別輸出量及びシェア

	2020年 1 月～2020年 8 月			対前年比 (%)	2019年 1 月～2019年 8 月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)		国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	フィリピン	181.0	36.3	96.1	フィリピン	188.2	37.2
2	中国	57.7	11.6	148.7	マレーシア	44.3	8.8
3	マレーシア	49.2	9.9	111.0	コートジボワール	42.8	8.5
4	ガーナ	41.2	8.3	141.7	中国	38.8	7.7
5	コートジボワール	36.2	7.2	84.5	ガーナ	29.1	5.8
6	イラク	9.0	1.8	33.3	イラク	27.0	5.3
7	その他	124.8	25.0	-8.0	その他	135.6	26.8
	計	499.0	100.0	98.6	計	505.8	100.0

資料：ベトナム税関総局をもとに農林水産省で作成

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

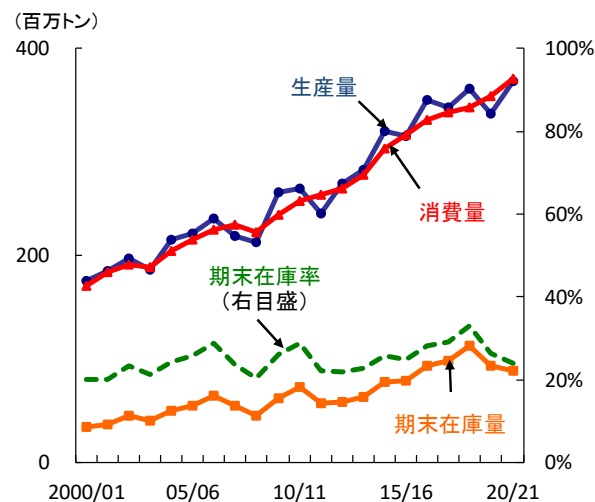
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・中国、バングラデシュ等で上方修正され、前月から上方修正された。
史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチンで下方修正も、米国で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2020.10.9）をもとに農林水産省で作成

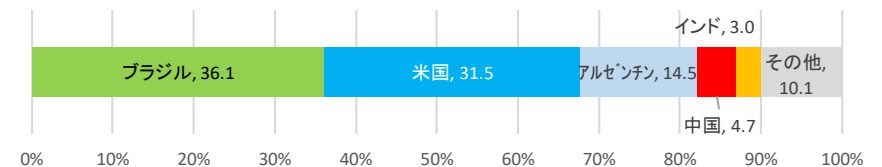
◎世界の大豆需給

（単位：百万トン）

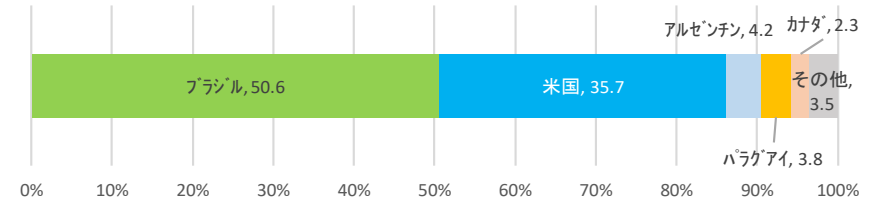
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	361.1	336.6	368.5	▲ 1.3	9.5
消 費 量	343.5	354.3	370.6	1.5	4.6
うち搾油用	297.9	308.7	322.4	1.6	4.4
輸 出 量	148.4	164.6	167.9	1.5	2.0
輸 入 量	145.1	163.0	165.0	1.7	1.2
期末在庫量	113.0	93.8	88.7	▲ 4.9	▲ 5.4
期末在庫率	32.9%	26.5%	23.9%	▲ 1.4	▲ 2.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 October 2020）

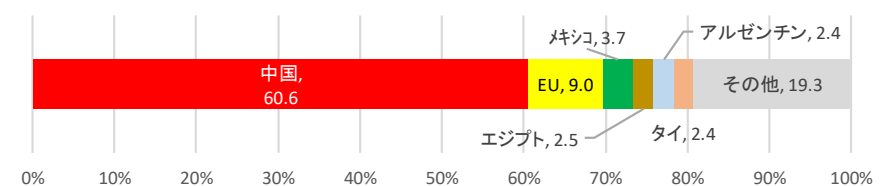
○ 2020/21 年度の世界の大豆の生産量 (368.5 百万トン) (単位：%)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸出量 (167.9 百万トン)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸入量 (165.0 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の実産量は、大豆の主要産地以外のカンザス州、ノースダコタ州、サウスダコタ州等の収穫面積の下方修正により前月予測から 1.2 百万トン下方修正されたものの、前年度より 20.2%増の 116.2 百万トンの見込み。「Crop Progress」（2020.10.19）によれば、収穫期の好天に恵まれ、10 月 18 日現在で主要 18 州における落葉率は 97%と、過去 5 年平均(95%)及び前年度同期(91%)より進んでいる。収穫率も 75%と、過去 5 年平均（58%）及び前年度同期（40%）より進んでいる。また、最終報告となる 10 月 11 日現在の作柄評価は、良からやや良が 63%と前年度同期（54%）を上回っている。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月からわずかに下方修正され、前年度より 1.7%増の 63.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2020/21 年度の輸出量は、最近の中国向けの活発な輸出成約を反映し、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度より 31.2%増の 59.9 百万トンと史上最高の見込み。輸出検証高（2020 年 1 月 2 日～10 月 1 日）は、29.1 百万トンであり、内訳は中国（11.1 百万トン）、メキシコ（3.2 百万トン）の順。

大豆－米国

(単位:百万トン)

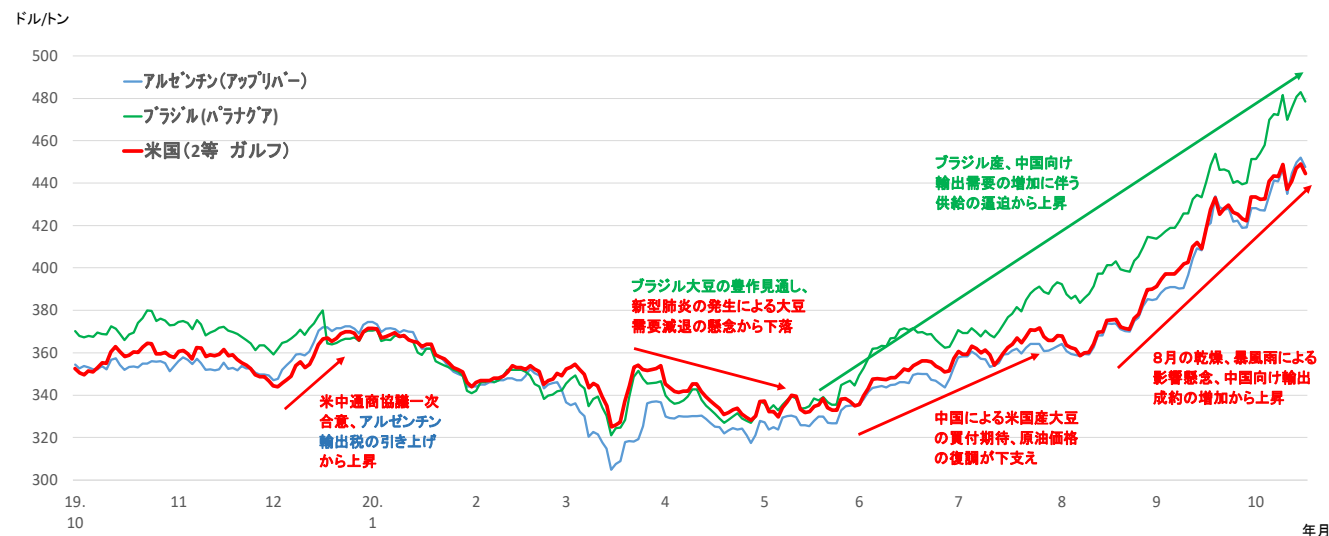
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.5	96.7	116.2	▲ 1.2	20.2
消費量	60.4	62.0	63.0	▲ 0.0	1.7
うち搾油用	56.9	58.9	59.3	-	0.7
輸出量	47.7	45.6	59.9	2.0	31.2
輸入量	0.4	0.4	0.4	-	▲ 2.4
期末在庫量	24.7	14.3	7.9	▲ 4.6	▲ 44.6
期末在庫率	22.9%	13.2%	6.4%	▲ 3.9	▲ 6.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.45	30.33	33.30	▲ 0.30	9.8
単収(t/ha)	3.40	3.19	3.49	-	9.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (9 October 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.6%増の133.0百万トンとなり、史上最高の見込み。10月下旬にブラジル中央部で広く降雨があったものの、中西部の主産地ではこれまでの乾燥により作付けが大幅に遅れている。マトグロッソ州では10月23日現在の作付け進捗率は25%と、前年度から40ポイント遅れている。南部のパラナ州での10月19日現在の作付け進捗率は32%と、前年度から13ポイント遅れている。さらに、ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきも見込まれるため、生育への影響も懸念される。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.10.8)によれば、生産量は、前年度より7.1%増の133.7百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月からわずかに下方修正されたものの、前年度より3.5%増の48.1百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫の減少による供給量の制約から史上最大の輸出となった前年度より8.1%減の85.0百万トンの見込み。なお、世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国を維持する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、3月以降中国向け輸出が急増しており、2020年1～9月の輸出量は79.2百万トンで、前年同期比1.3倍となっているが、輸出可能量は残りわずかである。内訳は、1位が中国で57.7百万トンと全体の73%を占めている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2020/21年度の大豆の作付けは、2020年9月以降、順次開始。

2021年2月以降収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2020/21年度	2020年												2021年								
	1月	...	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等												収穫 26.8(百万t)								
	作付 4.2(百万ha)												収穫夏冬計 105.2百万t								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 18.5百万ha												作付 14.3(百万ha)								
	マトグロッソ州、パラナ州等												収穫 78.4(百万t)								
大豆	作付 37.9(百万ha)												収穫 133.7(百万t)								

資料: Conab穀物レポート(2020.10.8)

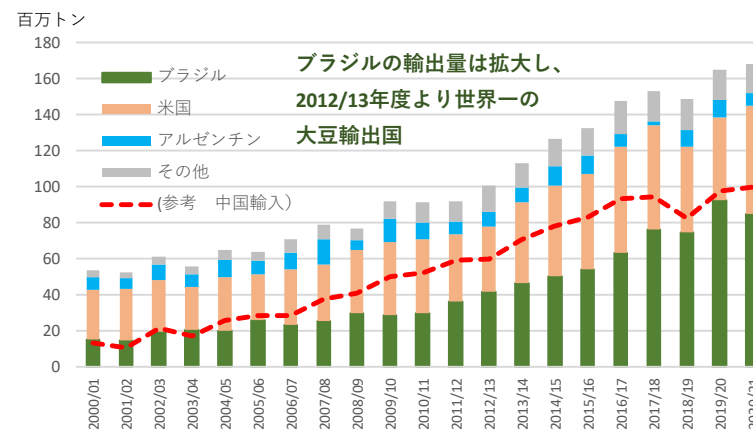
大豆ーブラジル

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	119.7	126.0	133.0 (131.5)	-	5.6	
消 費 量	45.2	46.5	48.1 (…)	▲ 0.0	3.5	
うち搾油用	42.5	44.3	45.5 (…)	-	2.8	
輸 出 量	74.6	92.5	85.0 (…)	-	▲ 8.1	
輸 入 量	0.1	0.6	0.4 (…)	-	▲ 27.3	
期末在庫量	32.8	20.3	20.6 (…)	0.9	1.3	
期末在庫率	27.4%	14.6%	15.5% (…)	0.7	0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	35.90	36.90	38.60 (40.40)	-	4.6	
単収(t/ha)	3.33	3.41	3.45 (3.25)	-	1.2	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 October 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(23 October 2020)

図: 世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2020.10.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より9.2%増の53.5百万トンの見込み。11月以降、本格的に作付けが開始されるとみられる。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より6.6%増の49.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、米国等の輸出増加に伴い前月予測から0.5百万トン下方修正され、国内の搾油量の増加に加え、中国向け輸出における米国、ブラジルとの競争から、前年度より30.0%減の7.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、4月以降、中国向け輸出が増加しており、2020年1～8月の輸出量は6.4百万トンで、前年同期より22%増。内訳は、1位が中国5.2百万トン(82%)、2位がエジプト56万トン(9%)となっている。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、2段階で、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から30%、さらに最大33%へ引き上げた。その後、10月1日に外貨準備高の増加を促進する目的で大豆関連商品の輸出税率の一時的な引き下げを発表した。大豆の輸出税は、10月は30%に引き下げられるものの、11月に31.5%、12月に32%に引き上げ、2021年1月には再び33%に戻る。

大豆ーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はOil.W		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	55.3	49.0	53.5	(50.5)	-	9.2
消 費 量	47.5	46.1	49.2	(...)	-	6.6
うち搾油用	40.6	39.2	42.0	(...)	-	7.3
輸 出 量	9.1	10.0	7.0	(...)	▲ 0.5	▲ 30.0
輸 入 量	6.4	4.7	4.0	(...)	-	▲ 14.0
期末在庫量	28.9	26.4	27.7	(...)	0.5	4.9
期末在庫率	51.1%	47.0%	49.3%	(...)	1.3	2.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.60	16.70	17.30	(16.50)	-	3.6
単収(t/ha)	3.33	2.93	3.09	(3.06)	-	5.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(9 October 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(23 October 2020)

写真: 北部サンタフェ州の大豆作付け

予定の圃場における整地作業

(9月30日撮影)

通常では11月に作付けが開始されるが、乾燥天候が継続している。



< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.3%減の17.5百万トンの見込み。なお、中国糧油情報センター(2020.10.9)によれば、9月の産地の東北部の天候は比較的良好で、大豆の収穫と乾燥に有利となった。ただし、9月初旬に到来した台風9号により一部で倒伏被害が発生した。9月末現在、東北部では成熟期から収穫期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、アフリカ豚熱の甚大な影響から回復し、養豚数の増加により大豆粕需要が高まることから、前月予測から1.0百万トン上方修正され、前年度より7.5%増の117.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、養豚産業の大豆粕需要の高まりにより前月予測から1.0百万トン上方修正され、前年度より2.7%増の100.0百万トンで史上最高の見込み。

中国財政部は、2月14日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税30%のうち、2019年9月追加分の5%分を半減させ、追加関税を27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2月18日、1年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020年1～8月の輸入量は64.7百万トンと、前年同期比で15%増。内訳は、ブラジル産48.9百万トン(76%)、米国産9.4百万トン(15%)。なお、8月の輸入量は、ブラジル産(8.1百万トン)が米国産(17万トン)を大きく引き離れた。今後は米国産大豆の収穫開始に伴い、輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報9月号」によると、国内の新穀大豆の豊作予想、備蓄大豆の放出の影響で、9月の国内価格(山東省の国産大豆工場渡し価格)は下落したものの、5,520元/トンで依然高水準である。一方、9月の国際価格(山東省の輸入大豆価格)は3,540元/トンと前月から7%上昇し、内外価格差は縮小した。

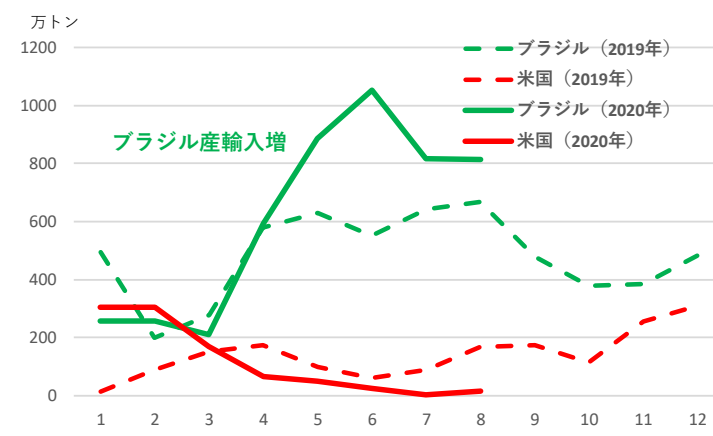
大豆－中国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、OはOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.0	18.1	17.5 (17.9)	-	▲ 3.3
消 費 量	102.0	109.2	117.4 (…)	1.0	7.5
うち搾油用	85.0	91.5	99.0 (…)	1.0	8.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	11.1
輸 入 量	82.5	97.4	100.0 (…)	1.0	2.7
期末在庫量	19.5	25.7	25.7 (…)	▲ 1.6	-
期末在庫率	19.1%	23.5%	21.8% (…)	▲ 1.6	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.41	9.30	9.30 (9.42)	-	-
単収(t/ha)	1.90	1.95	1.88 (1.90)	-	▲ 3.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 October 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(23 October 2020)

図：中国におけるブラジル・米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分した。

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少から前年度より0.7%減の6.0百万トンの見込み。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2020.10.22)によれば、マニトバ州等カナダ西部では天候に恵まれ、単収・品質とも良好。オンタリオ州等カナダ東部の収穫作業は11月初旬までかかる見込み。また、産地のマニトバ州クロップレポート(2020.10.20)によれば、収穫期の乾燥天候が収穫作業を促し、収穫率は97%と、低温の影響で収穫が遅れた前年度(30%)に比べ進んでいる。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.2%増の2.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より1.4%減の3.9百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.4	6.0	6.0 (6.2)	-	▲ 0.7
消 費 量	3.1	2.7	2.7 (2.5)	-	0.2
うち搾油用	2.1	1.8	1.8 (1.9)	-	-
輸 出 量	5.3	3.9	3.9 (4.2)	-	▲ 1.4
輸 入 量	1.2	0.3	0.6 (0.4)	-	109.1
期末在庫量	0.9	0.6	0.6 (0.7)	-	-
期末在庫率	10.2%	8.4%	8.5% (10.1%)	-	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.54	2.27	2.00 (2.05)	-	▲ 11.9
単収(t/ha)	2.92	2.66	3.00 (3.04)	-	12.8

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(9 October 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(22 October 2020)

写真: サスカチュワン州の大豆の収穫風景
(10月5日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2020/21年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	20年6月～21年5月	20年9月～21年8月	20年8月～21年7月	20年9月～21年8月
カナダ	20年8月～21年7月			20年8月～21年7月
豪州	20年10月～21年9月		21年3月～22年2月	
EU	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		
中国	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月
ロシア	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		20年9月～21年8月
ブラジル		21年3月～22年2月	21年4月～22年3月	20年10月～21年9月
アルゼンチン	20年12月～21年11月	21年3月～22年2月		20年10月～21年9月
タイ			21年1月～12月	
インド	20年4月～21年3月		20年10月～21年9月	
ベトナム			21年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2020/21年度は、米国の小麦では2020年6月～2021年5月、ブラジルのとうもろこしでは2021年3月～2022年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2020 年 10 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---